

ボランティアセンターだより

編集・発行：社会福祉法人 越生町社会福祉協議会

令和6年12月1日発行

越生町ボランティアセンター

電話番号：049-292-2977 住所：越生町越生908-12

HP <http://www.ogose-shakyo.or.jp> E-mail info@ogose-shakyo.or.jp

当事者の気持ちになって考える ボランティア入門講座 4回目

令和6年10月16日(水)のボランティア入門講座では、車いす・アイマスク体験講座を実施しました。2人1組でペアになり、基本的な介助方法と合わせて、介助される側の体験も同時に行いました。中央公民館体育館に設置した、段差や障害物の置かれたコースをクリアしていただいたのち、館内のスロープや階段、自動販売機等の“普段の生活で当たり前に行っていること”を体験していただきました。

受講生の皆さんからは「ちょっとした段差でも、結構揺れるなあ。」「坂道は、上りも下りも、車いすを支えるのにかなりの力が要るから大変だ。」「自動販売機の上段に手が届かない!」「車いすだけでは危険な場所がたくさんあることが分かった。介助ってとても大切だね。」とのご感想をいただくことができました。



アイマスク体験では、白杖を持ちアイマスクを付け、全盲の方を想定した視覚障がい者役と、半歩前に出て誘導を行うガイドヘルパー役を体験しました。人間は、視覚からの情報が8割と言われています。慣れない状況に、受講生の皆さんも苦労している様子でした。「普段目を覆って生活することが無いから、とても疲れた。」「足を踏み外してしまったら…」と思うと怖い。一人で外出は難しい。」「段差や障害物を避けるのに、声掛けの大切さが分かった。」という気づきを共有することができました。

また、ユニバーサルデザインについては、障がいの有無に関わらず、誰にでも使いやすいデザインということで、講座の中でご紹介させていただ

きました。シャンプーヘッドや点字ブロック、横断歩道で流れる音声など、身近なユニバーサルデザインについて情報共有を行いました。その中で、点訳サークルで活躍されている参加者の方から「駅等に点字表記があると、我々はすぐにそれを見つけることができるけれど、視覚障がいをお持ちの方にとっては、どこに点字があるのかを知ることが自体が難しいそうです。」という、当事者の視点での貴重なお話を伺うことができました。

介助方法を学ぶだけでなく、介助される側の体験をすることで、様々な気付きを得ることができました。介助の際には、その都度の声掛けと、その人それぞれに合った支援が重要であることを再確認しました。



見て見て！
素敵な作品がズラリ

文化祭・産業祭に出展しました



本町区サロンでは、毎年行われる産業祭にてサロンで製作した作品を展示しました。色紙のお花や立体的なユニット折り紙、靴下の端切れを使った小物などのかわいらしい作品が目を引きます。“ご自由にどうぞ”と書かれた作品は、あっという間に完売！この日のために一生懸命作った華やかな作品が、会場を彩りました。

一方、本会ではふれあいルーム参加者の皆さん

が作った手作りのカレンダーを中心とした、素敵な作品を出展しました。ふれあいルームでは毎月、色画用紙や折り紙等を使った、季節感満載のカレンダー作りを行っています。来年はどんな作品が並ぶのか、今から楽しみです。



「皆で作ると美味しいね！」 自梅会 餃子の日



「高齢者になった今だからこそ、みんなで集まって何かしたい。」そんな会長の熱い気持ちから始まったこの催しは、老人クラブ単位会“白梅会”による“皆で餃子を作って食べる”イベントです。令和6年11月13日に、会長宅にて実施しました。一生懸命刻んだ野菜とお肉を練り上げて、参加者全員で餃子を包みました。焼き上がった餃子を、窯で炊き上げたごはん、野菜がどっさりと入ったけんちん汁と一緒にいただきました。楽しく美味しい、至福の時間を過ごすことができました。「初めて餃子作りに挑戦したけれど、楽しいものだね。」「ちょっと

形が変だっているんだよ！」「皆で食べると美味しいなあ。近所の人にも配ろう。」と、大賑わいを見せました。

食事をする目的は、単に栄養を摂ることだけではありません。食事はコミュニケーションの場としても重要です。ぜひ、仲間と一緒に食事をする機会を増やしていきましょう。

埼玉県立越生高等学校で室内ペタンク体験



生徒達のホッとひと息つけるような居場所づくりの一環として、埼玉県立越生高等学校の生徒と、本会登録ボランティアとの交流事業が行われました。写真は、室内ペタンクに挑戦している様子です。皆さんとても集中して、ボランティアさんのアドバイスを聞いています。

「生徒さんに関われることが嬉しい。私自身も、楽しませてもらっています。」「室内ペタンクを通じて心のふれあいを感じてほしいです。」と、ボランティアさんは笑顔で語ります。穏やかで楽しい時間を過ごすことができました。